厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

「認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発と有効性の検証」

4. 看護・介護的観点からのプログラム内容の見直しと修正

研究分担者 野﨑 和美（国立精神・神経医療研究センター・病院・看護部・副看護師長）

研究要旨
本研究では、介護者の孤立を防ぎ、社会資源へのアクセスの促進、介護者のストレスの軽減や燃えつきの予防、メンタルヘルスの向上の実現を目指すことを目的に、認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムを開発し、RCT を実施中である。WHO が作成した iSupport を日本の文化や介護環境等を考慮した上で日本語化し、認知症認定看護師の視点からプログラム内容の見直しと修正を行った iSupport-J の被験者から得られたプログラムへの意見を把握し、iSupport のハードコピー版の作成に着手した。

A. 研究目的

本研究では、日本の文化や介護環境等を考慮した上で、看護・介護的観点からのプログラム内容の見直しと修正を行った iSupport 日本版（以下 iSupport-J）により、家族等の認知症介護者の知識と技術の向上を目指すと共に、孤立している家族等が認知症の専門医療機関や相談窓口、介護サービスなどの社会資源へのアクセスを促進することが期待される。また国際比較可能な標準的な知識や技術とその効果を提示することにより、行政及び地域保健における認知症対策にも役立てることができ、有用で良質なエビデンスを創出できる。将来的には、認知症介護者のストレスの軽減や燃えつきの予防、メンタルヘルスの向上の実現を目指す。

平成元年に６月に閣議決定された認知症施策推進大綱では、認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進するという方針の中で、医療・介護の手法の普及開発および、認知症の人の介護者の負担軽減の推進が求められている 1)。本研究は認知症患者の次世代型ケアモデルとして、この政策の実現に資するものである。

また、インターネットにアクセスできない介護者が同様の情報にアクセスできるように配慮するためハードコピー版の作成に着手し、iSupport-J 被験者から得られたプログラムに関する意見を参考に内容の検討を行った。

B. 研究方法

日本語化や家族会・有識者の意見を反映し内容修正したiSupport-Jを、インターネットにアクセスできない介護者が同様の情報にアクセスできるように配慮するためのハードコピー版の作成に着手した。

ハードコピー版着手に際し、iSupport-J被験者のセッション毎のアンケートやプログラムに対する意見の把握・分析を行った。

iSupport-J被験者のアンケート内容を参考にハードコピー版作成に際する内容の検討を行った。

（倫理面への配慮）

iSupport-J被験者のセッション毎アンケートやプログラムに対する意見の抽出に関しては、iSupport-Jシステム内で個人情報保護のため暗号化され、個人の識別データがない状態となった自記式アンケート内容のみのデータを使用した。

C. 研究結果

１．アンケート内容の分析

① アンケート内容の概要

現在iSupport-Jに関するRCT実施中であり、研究評価項目での分析は今後行われるが、自記式のアンケートの中では、介護に対する向き合い方やストレス緩和、コミュニケーションの取り方等に関しては、「今までの自身の介護が肯定してもらえたような気がする」や「レッスンの中で、『介護は孤独を感じる』『自分自身をいたわる必要がある』という文章に救われた」とレッスンを通して、被験者の自己肯定感の高まりや負担感の軽減に関する意見が多くみられた。一方で、介護者が負担を感じている精神症状に関するレッスンでは、「具体的な対応方法がもっと知りたかった」「理想論での対応が多い気がする。実際には難しい」というレッスンを通して学習内容に物足りな

さを感じるという意見が見られた。

② 表現に関する被験者の不快感
コンテンツ内の設問の回答に関しては、前年度、フォーカスグループから、介護には本人や介護者の人生や価値観などが影響するので明確な「答え」のあることは難しく、慎重に使用したほうがいいのではないかという意見があり、「正しい回答」から「より良い対応」「あまり適切でない対応」と変更していた。しかし、アンケート内容によると、自身の回答が載ったうえで「より良い対応」・「あまり適切でない対応」と表示されたことで、結局「正解」「不正解」と捉えられることになり、解答に納得がいかないという意見も見られた。

２．アンケート内容における検討事項の反映（インターネットコンテンツからハードコピー版への反映における内容や表現の変更点）

① 設問への回答
インターネットコンテンツでは、被験者が回答した内容を次ページに記載し振り返り、さらに次ページで「より良い対応」「あまり適切でない対応」と自身の回答を振り返りながら、解答に関する説明を記載していた。ハードコピー版では、自身の回答を整理できるように記入のスペースやチェックマークが入れられるような様式にしているが、記入は必須ではなく、自身のペースで読み進められるようにしている。また、前述の1－②で述べたように、自身の回答に対する解答への不快感を軽減するために設問ページの次ページに説明が行われることで、利用者の考えを補助する形での表現とした。

② 補足情報の掲載
インターネットコンテンツでは、補足情報を受講者の必要性に合わせてアイコンや注釈を押して表示するようにしていた。アンケート回答の中で、補足情報に関して、「細かく具体的に説明があり、役に立った」との意見があり、ハードコピー版ではページを分けて補足情報・補足資料・付録として次ページや巻末に載せることを研究者間で検討し決定した。

③イラストの掲載
インターネットコンテンツでは、イラストが不要な場合には削除できるようイラストあり・なしを選択できる仕様としていた。ハードコピー版作成の際に、研究者間で検討を行い、内容量の多いハードコピー版の学習効率を考えイラストを掲載することとした。イラストはインターネットコンテンツと同様のイラストを使用した。

D. 考察

昨年度は介入期間や介入後の調査期間の変更、中間解析に関する計画を策定し、それに則って本年度ではRCTを実施している。
現在RCTが行われており、症例数が達成され次第、中間解析を行う方針である。
また、 iSupport-Jを、インターネットにアクセスできない介護者が同様の情報にアクセスできるように配慮するためのハードコピー版の作成に着手し、iSupport-J参加者のアンケートから、ハードコピー版での内容の検討を行った。日本における認知症に関する社会情勢や法制度は変化の中にあり、今後の情勢や利用者のニーズに合わせて内容や参照URL等の変更が継続して行われる必要があると考える。

E. 結論

インターネットにアクセスできない介護者が同様の情報にアクセスできるように配慮するためハードコピー版の作成に着手し、iSupport-J被験者から得られたプログラムに関する意見を参考に内容の検討を行った。

参考文献
１）厚生労働省「認知症施策推進大綱」: https://www.mhlw.go.jp/content/000522832.pdf : 閲覧 2022.4.30

F. 健康危険情報

総括研究報告書を参照。

G. 研究発表

1. 論文発表
本年度の発表はなし。
2. 学会発表
本年度の発表はなし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし。
2. 実用新案登録
特になし。
3. その他
特になし。